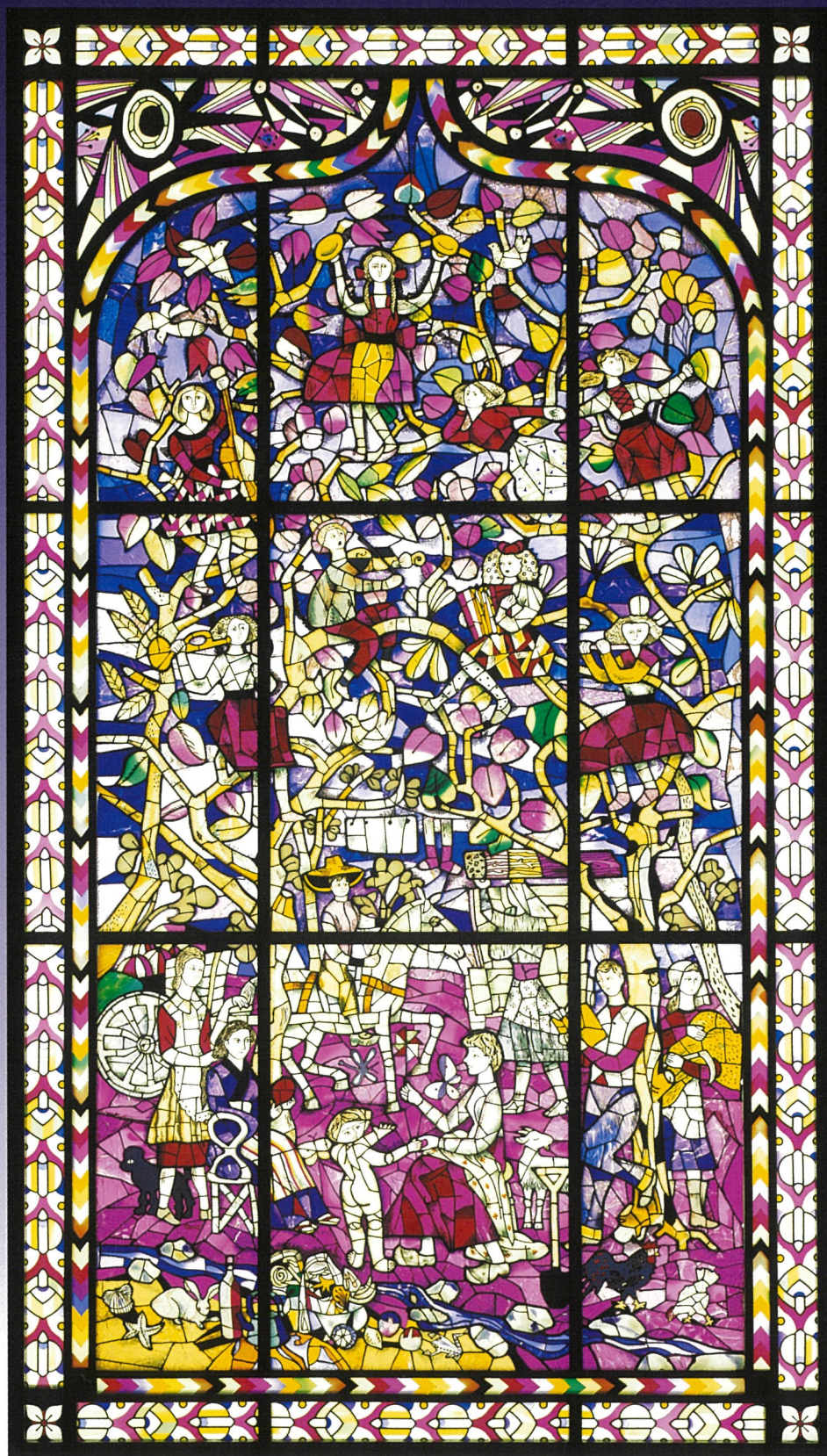


『次代に向けて』—新造形作品を中心に

12月10日(火)～平成15年3月16日(日)



■ 列品解説

1月26日(日)午後2時から

2F大展示室

開館時間…午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日…月曜日(休日の場合はその翌日)

年末年始 12月28日(土)～1月4日(土)

観覧料…一般500円、高大生400円、小中生200円

京都府立

堂本印象美術館

京都市北区平野上柳町26-3 立命館大学正門前 TEL 075-463-0007

『次代に向けて』—新造形作品を中心に

「一切の過去のなものから手を切らない限り真の創造ではないし、明晰な意識の上立つ伝統の否定こそ真の伝統であると。長年の経験と信念からそういうことが出来る…」

不退転の決意のもと、戦後の堂本印象は、作風を洋画風表現、そして抽象表現へと、大きく変貌させました。これからの作品群を、印象はやがて自ら「新造形」と称する様になりますが、花鳥風月から仏画まで、あらゆる伝統的な画題を華麗に描き、流行作家としてもはやされた画家の大胆な転身は、否が応にも世間を戸惑わせました。

しかし、たとえ抽象的な主題でも、印象の作品には、情感溢れる墨線、日本画家特有の素材である紙本や顔料の微妙な風合いや色合いがあふれています。つまり、様々な表現の果に心象が確立した独自の表現は結局、日本美術の特質とでもいえる装飾性とクロスオーバーするものであり、まさに伝統を否定しながら伝統に立脚したものであったといえるのでしょう。

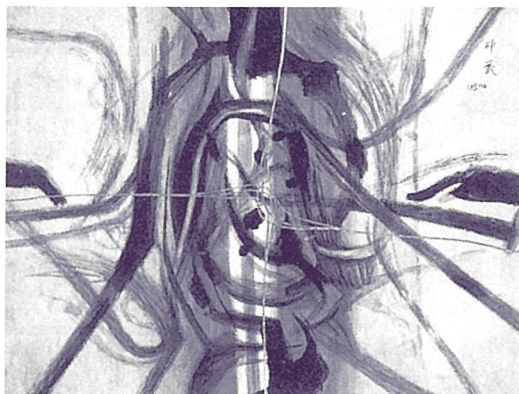
本展では、印象の画業の後半部を展観し、今なお斬新なその表現を省みるとともに、各作品に潜む伝統を探ります。多くの先達から学び得た伝統を、印象はどのように次代に伝えようとしたのか、ご観賞いただければ幸いです。



八時間 昭和26(1951)年



縁起 昭和38(1963)年



覚機 昭和41(1966)年

12月10日(火)～平成15年3月16日(日)

■列品解説

1月26日(日)午後2時から
2F大展示室



●交通機関

JR京都駅より市バス⑩、JRバス(立命館大学前経由)、
阪急烏丸駅より市バス⑫⑮、京阪電車三条駅より
市バス⑫⑬⑯、JR円町駅より市バス⑮にて。
いずれも「立命館大学前」下車